

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494100033	事業の開始年月日	平成19年10月1日
		指定年月日	平成19年10月1日
法人名	医療法人社団 昌栄会		
事業所名	グループホーム あいち		
所在地	(〒252-0011) 神奈川県座間市相武台1-4947-10		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成24年2月7日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月21日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人は、24時間救急体制の病院を運営している医療法人であり、利用者の容態急変や重度化した場合は、安心して医療の提供が受けられる。建物内部は木造りで、明るく清潔感があり、温かみのある空間となっている。防火設備も整い、全館バリアフリーで、オール電化や床暖房も取り入れ安全である。職員は、殆ど常勤であり、教育、防災、環境、行事、広報、虐待、身体拘束防止等の委員会制度があり、各々責任を持って役割任務を果たしている。利用者個々の希望実現を図る制度もあり、入居者会議も導入している。利用者優先の理念をかかげ、職員も内外の研修に参加し、より良い支援を目指している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月24日	評価機関 評価決定日	平成24年5月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】
この事業所は、小田急線相武台駅から徒歩12分くらいの場所にある。幹線道路から一步入った場所であるが、周辺は静かな住宅街となっている。建物は2階建てで、各階に1ユニットずつとなっている。近くに同法人が運営する相武台病院があり、医療面で連携している。
法人の方針として、原則として職員は常勤である。また、法人全体で「虐待・身体拘束廃止委員会」や「教育委員会」などの各種委員会があり、職員の自主性を重んじると共に連携して運営を推進している。
【市町村との連携】
座間市の職員が運営推進会議に毎回参加しているほか、利用者の受け入れ等でも随時相談している。昨年の地震の際には市職員が駆けつけてくれるなど、市との連携体制ができています。
【利用者の希望を叶える取り組み】
入居者会議を2ヶ月に1回開催しており、多くの利用者が出席している。利用者から直接意見・要望をもらい、実現に向けて職員全体で取り組んでいる。具体的には「散歩や行事を増やして欲しい」との意見があり、家族の協力も得て、レクリエーションとして体操をするなど、希望を実現させている。また、外出も水族館見学、墓参り、寿司など、利用者ごとの希望に対応している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあいち
ユニット名	ひかり

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所理念の他に、各ユニットの理念も掲げており、会議等で、折に触れて、理念を共有し、現場への実践につなげている。</p>	<p>理念は、開設から2年後にユニットごとにユニットリーダーを中心に見直した。研修や会議で職員に周知している。できるだけ利用者が出来ることを職員がやってみせ、職員が利用者に対して「ありがとう」と言う機会を増やすように心がけている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に入り、地域清掃や盆踊り及び総会等に参加している。また、自治会の回覧板で事業所の納涼会、救急救命講習会、防災訓練等行事の案内をし、地域の方にも参加してもらっている。</p>	<p>北相武台自治会に加入しており、回覧板が回ってくる。隣の地区の盆踊りに参加したり、地域の清掃活動をしたり、近隣の方からおはぎをもらうなどの交流がある。今後、保育園や小中学校との交流の機会を検討している。</p>	<p>事業所の行事に地域の方にも参加してもらうなど、交流の機会が出来てきています。今後は、保育園や小中学校等、交流の機会を増やしていく取り組みを期待します。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所の実践内容を踏まえ、随時地域の方からの介護及び認知症等の相談に応じている。また、運営推進会議では、自治会の代表に参加してもらい、認知症への理解を深めている。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、市職員等が参加し実施。事業所の現況報告や災害防止等テーマに沿い、意見交換し、運営に活かしている。</p>	<p>偶数月の第二水曜日の11時からと、日時を決めて開催している。座間市の職員が毎回参加しており情報交換している。消防署の方に講演してもらったこともある。玄関の施設が度々議題になり、今後の検討課題となっている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市介護保険担当職員と連携し、入居状況等の報告や相談を行っている。また、運営推進会議には、市職員も参加し、事業所の実情や取組みを伝え、協力関係を築いている。</p>	<p>介護保険の更新のため、市の担当課を毎月訪問している。入居者の受け入れなど、日常的に相談している。昨年地震の際には市職員が駆けつけてくれるなど、連携が取れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束防止委員を設置し、内部研修を行っている。玄関は、前が幹線道路の為、危険防止上、やむをえず手動施錠しているが、会議等で、常に議論を行っている。</p>	<p>虐待・身体拘束防止委員会があり、身体拘束の有無を日頃から確認している。また、職員全体の研修を定期的実施している。ユニット会議でヒヤリハットや事故について毎月報告があり、対応を検討している。玄関は、家族からの要望もあり施錠し、手動で開閉している。開放については、運営推進会議等で検討している。</p>	<p>玄関の鍵については引き続き検討を進め、利用者の安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援する取り組みを期待します。</p>
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員を設け、職員に虐待のアンケートを行っている。内部研修で高齢者虐待防止について学ぶ機会を持ち、全職員への理解浸透を図り、防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は、成年後見制度等、権利擁護について、内部研修等で学び、必要な利用者には、それらを活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、事業所の重要事項、理念、看取り、対応可能な範囲等、丁寧な説明を心懸けている。また、利用者やご家族の不安や疑問には、十分説明を行い、理解を得るようにしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者会議を行い、意見を生活に活かしている。ご家族には、来所時、家族懇親会、アンケートで、意見要望を伺っている。運営推進会議は、両者の参加を得、意見の反映に努めている。</p>	<p>入居者会議を2ヶ月に1回開催しており、利用者から直接意見・要望をもらい、実現に向けて取り組んでいる。「散歩や行事を増やして欲しい」との意見があり、家族の協力も得て、レクリエーションとして体操をするなどの取り組みをしている。また、家族懇談会も行事の際などに開催し、意見を聞いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や年2回の個別面談を設け、職員の意見を聞くようにしている。その他日々の業務の中でも、事ある毎に、職員の意見や提案を聞くように努め、運営に反映させている。	日常的に職員から話を聞いているほか、年2回の個人面談の際に意見を吸い上げている。誕生会や、1階と2階の「おやつ交流」について職員から提案があり、実行されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表提出時に、職員個々の実績、勤務状況を把握するようにしており、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施や、外部研修を受ける機会の確保を行う努力しており、資格取得の奨励も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	神奈川県認知症グループホーム協議会に所属しており、同業者との交流・連携に努めている。また、市内のグループホーム協議会も立ち上げ予定である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談は、自宅や病院に訪問し、直接本人と面談し、不安や要望等に耳を傾け、安心の確保に努めている。また、本人にホームへ見学に来てもらい、信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談やホームへの見学時及び契約時にご家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、ご家族に安心して頂けるよう、努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人や家族がその時必要なサービスを見極め、他のサービスが必要な場合は、必要なサービスに繋げている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の大先輩である利用者から、昔の文化等、学びの機会を得ており、励ましの言葉を頂く機会も多い。職員は常に、利用者と共に支えあい、良い関係作りに努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話で、本人の日頃の様子をご家族に報告し、事ある毎にご家族と相談し、要望・ご意見を伺いながら、支援にあたっている。また、その後の報告も行うようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人の来所時には、お茶を出すなどして歓迎している。また、家族や職員の支援で、馴染みの店やお墓参りに行ったりしている。	地域の合唱団の知人が訪問するなど、地域の方との交流の機会がある。デパートや小田原城見学など、馴染みの場所を訪問する支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の利用者同士の関係を掌握し、申し送り等で職員間で共有するようにしている。また、問題があれば、すぐ対応し、利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院へ移っても、折に触れ、面会に行き、継続的なフォローを心懸けている。また、本人・ご家族へも必要に応じ、相談に乗り、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者は、夜勤帯に、意向を伝えてくれることが多く、申し送り等で他の職員に報告している。把握が困難な場合は、表情等から読み取っている。また、個別の希望実現も行っている。	夜間によく話をする方は夜勤職員が聞き取るなど、その人に応じて意向を聞き取るようにしている。把握が困難な方は、表情から読み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談で、ご家族や本人から生活歴、環境、経過等の把握に努めている。また、入所後の生活の中で、把握したことがあれば、全職員で共有を図っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の全体像を掌握できるシートを用い、利用者の現状把握に努めている。また、個別検討会議で、暮らしの現状の把握に努め、全職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族の意見を反映させ、毎月の個別検討会議で職員の意見も取り入れ、必要に応じ主治医、看護師、マッサージ師等の意見も収集し、介護計画を作成している。	「体の機能まるごとマップ」を使い、状態を把握している。状態が変わらない場合は6ヶ月ごとに見直しをしている。ユニット会議の中でケース会議をしており、家族からは訪問時等に意見を聞いている。医師や看護師からは、往診や訪問時に意見を聞いている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録の他に、経過記録もつけており、職員間で情報の共有を図りながら、介護計画等の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じ、「希望実現」という取組みを行っており、職員同行で好みの場所に出かけている。また、入居者会議を行い、できるだけニーズに答えるようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者も地域の草むしりに参加し、近隣への散歩で、季節の花を愛でたり、地域の方から温かい声をかけてもらったりしている。行事の際は、地域ボランティアの参加もある。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、家族対応で、受診してもらっている。結果は連絡ノートに記録している。また、ホームへは内科医、看護師、歯科医が定期的に訪れている。	1名の方が、東芝林間病院の内科と眼科を利用している。受診は家族対応で、家族から受診情報を受け、ケース記録に記入している。往診医は月1回、訪問看護師は週2回、歯科医は週1回の訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	職員は、常に利用者の様子を、訪問看護師に伝え、相談し、連携を取りながら、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	協力病院及び他医療機関に入院した場合も、医師、看護師、相談室等の病院関係者との情報交換に努め、早期退院へ向け努力している。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	事業所では看取りは行わず、看取りが必要と主治医が判断した場合は、病院への入院紹介を行っている。また、それに関する同意書を作成し、ご家族へ説明し、同意を得ている。	看取りは行わない方針で、入居時に本人・家族に説明して同意書を受け取っている。退去の時期の目安は医師の判断に従い、病院への紹介を行なっている。	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	ホーム内で、消防署の協力を得て、定期的に救急救命講習会を開催している。また、急変や事故発生時に備え、内部研修を行い、実践に備えている。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	自主防災訓練を隔月で行っている。年に1回消防署の協力を得て、自治会の方にも声をかけ、防災訓練を行っている。災害に備え、水、非常食、カセットコンロ等用意している。	自主防災訓練は、地震や夜間を想定した計画を委員会が立て、実施している。年1回は消防署の協力を得て実施している。利用者も参加している。備蓄は、事業所内外に懐中電灯、ローソク、水、食品、卓上コンロ等を備えている。災害時の地域との連携は、今後の課題である。	防災訓練等は実施されているので、今後は防災や災害時の対応について、地域との連携を深めていく取り組みを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、人生の大先輩との尊敬の念を持ち、サポートしていくことを、会議等で確認しあっている。声掛け及びトイレ、入浴時の対応も気をつけ、プライバシー保護に気を配っている	利用者の呼び方は、あだ名や「ちゃん」づけはせず、「～さん」と呼ぶようにしている。トイレを使う際はタオルをかけるなど、プライバシーに配慮している。また、靴箱には利用者の名前ではなく部屋番号を使ったり、人のいるところで利用者の話をしないように心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	夜勤帯に、利用者が、思いの表出をすることが多く、その思いは共有し、実現につなげている。また、自己決定が難しい利用者は、寄り添い、思いをくみ取るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレクリエーションも強要せず、利用者一人一人のペースを大切にしている。入浴も入りたくない時は、日を改める等、工夫している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月床屋へ行く入居者もいる。スカーフやアクセサリを楽しむ利用者もあり、称賛を心懸けている。また、難しい方には、組合せ等配慮して、身だしなみに気を配っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、出来る範囲で、調理、盛り付け、片付けを行っており、職員も一緒に同じ食事をしている。誕生会、行事には、好みの献立や外食をし、食事を楽しんでいる。	食材は、配達業者を利用している。職員は、同じ物を一緒に食べている。利用者は、出来る方は調理や味見、配膳・下膳、盛りつけなどを行なっている。月に1回は外食をしにファミリーレストラン、寿司、うどん、そば、中華などへ行っている。また出前を取るなど、好みの食事を楽しめるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事は、栄養士によるバランスのとれた献立となっている。食事量や水分量は、日々記録し、掌握している。利用者個々に応じて、おかゆや刻み、とろみ食の対応も行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、専用の口腔内ブラシを併用している利用者もいる。歯科衛生士による定期的な口腔ケアを行っている者もいる。義歯は、夕食後に預かり、洗浄している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、必要な方には、排泄チェック表を用い、トイレ誘導をしている。日中は、なるべく布パンツで過ごせるよう工夫している。	昼間はできるだけ布の下着で過ごせるようにしている。必要な方は排泄チェック表を記録し、誘導の目安にしている。夜間は、夜勤者がバイタルを時間ごとに記録し、排便等を個人記録に記載している。便意が無い方についても、マッサージをするなどして自立排泄の支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、牛乳やヨーグルト、果物を提供する等、工夫している。また、体操、散歩、家事等、身体を動かす機会を設け、個々に応じた予防を心懸けている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回、午後の入浴が基本になっているが、希望に合わせて、柔軟に対応している。季節のゆず湯、しょうぶ湯を楽しんだり、歌を歌ったり、楽しく入浴できる工夫をしている。	原則として週3回、13時から16時ごろに入浴している。希望があればそれ以外でも対応しており、毎日入浴している方もいる。入浴したがない方には、職員や時間を変えて声かけしている。ゆず湯やしょうぶ湯など、季節ごとの入浴を楽しむ支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に居室で横になる方やソファでくつろぐ方もおり、個々に休息できるよう支援している。夜間も安眠できる様、見守り、リネン交換、照明、温度、湿度に気を配っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬情報がファイルされており、職員は内容を把握している。服薬確認は二重チェックをかけている。症状の変化があった場合は、すぐ医師や看護師に連絡している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶、習字、絵画、お琴、読書、縫い物、編み物、園芸、ドリル、回想、歌、カラオケ、手品、紙芝居、トランプ、ゲーム等、楽しみを支援し、生活の中でも役割を担ってもらっている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	個々の希望や状態に合わせ、散歩、買物等の支援を行っている。また、希望者には、個別対応での外出支援も行っている。外食を兼ねた外出行事は、概ね月1回実施している。	散歩は、天気の良い日は毎日、近隣の公園等に30分ほどかけて出かけている。車椅子を利用している方も参加している。遠方への外出としてはいちご狩り、花見、あじさい、菖蒲見学等の機会がある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で、少額のお金を預かっており、買物の際は、できるだけ本人に支払ってもらうよう支援している。また、ご家族の希望で、少額の現金を、所持している利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別対応となっており、ご家族の了解が得られれば、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また、ご家族等からの電話や手紙も同様に取り扱いでいる。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内部は、木造りで温かみのある空間になっており、居間は床暖房になっている。ソファやテレビが配置され、花壇には季節の花を植えている。アルバムも、手に取れるようにしている。	リビングには大きめのソファがあり、くつろげるようになっている。壁には行事の写真等が掲示されている。温度や湿度は随時調節している。ベランダがあり、外の空気を浴びることができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや玄関前の椅子、ウッドデッキのベンチ、階段下の椅子等、居場所の工夫をしている。また、1～2階のユニット間の出入りは自由で、好きなように入出入りしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、洗面台とクローゼットが設置されている。仏壇、タンス、テレビ、テーブル、椅子、家族の写真、小間物等持ち込み、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室の入口は、利用者ごとに大きく名前を書いたり、花を飾ったりしている。室内には洗面台やクローゼットがある。利用者は仏壇や写真、小物を持ち込み、過ごしやすい環境を作っている。カーペットを敷いている方もいる。照明を利用者によって変えたり、入口のすりガラスに紙を貼るなど、利用者に応じて環境を整えている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、利用者の状態に合わせ、常に居住環境の見直しを行っている。手すりの増設、ポータブルトイレや車いすの導入、ベッドや浴用イスの見直しを行った。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494100033	事業の開始年月日	平成19年10月1日	
		指定年月日	平成19年10月1日	
法人名	医療法人社団 昌栄会			
事業所名	グループホーム あいち			
所在地	(〒252-0011) 神奈川県座間市相武台1-4947-10			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年2月7日	評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人は、24時間救急体制の病院を運営している医療法人であり、利用者の容態急変や重度化した場合は、安心して医療の提供が受けられる。建物内部は木造りで、明るく清潔感があり、温かみのある空間となっている。防火設備も整い、全館バリアフリーで、オール電化や床暖房も取り入れ安全である。職員は、殆ど常勤であり、教育、防災、環境、行事、広報、虐待、身体拘束防止等の委員会制度があり、各々責任を持って役割任務を果たしている。利用者個々の希望実現を図る制度もあり、入居者会議も導入している。利用者優先の理念をかかげ、職員も内外の研修に参加し、より良い支援を目指している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあいち
ユニット名	あじさい

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の他に、各ユニットの理念も掲げており、会議等で、折に触れて、理念を共有し、現場への実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域清掃や盆踊り及び総会等に参加している。また、自治会の回覧板で事業所の納涼会、救急救命講習会、防災訓練等行事の案内をし、地域の方にも参加してもらっている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実践内容を踏まえ、随時地域の方からの介護及び認知症等の相談に応じている。また、運営推進会議では、自治会の代表に参加してもらい、認知症への理解を深めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、市職員等が参加し実施。事業所の現況報告や災害防止等テーマに沿い、意見交換し、運営に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険担当職員と連携し、入居状況等の報告や相談を行っている。また、運営推進会議には、市職員も参加し、事業所の実情や取組みを伝え、協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束防止委員を設置し、内部研修を行っている。玄関は、前が幹線道路の為、危険防止上、やむをえず手動施錠しているが、会議等で、常に議論を行っている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員を設け、職員に虐待のアンケートを行っている。内部研修で高齢者虐待防止について学ぶ機会を持ち、全職員への理解浸透を図り、防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は、成年後見制度等、権利擁護について、内部研修等で学び、必要な利用者には、それらを活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、事業所の重要事項、理念、看取り、対応可能な範囲等、丁寧な説明を心懸けている。また、利用者やご家族の不安や疑問には、十分説明を行い、理解を得るようにしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者会議を行い、意見を生活に活かしている。ご家族には、来所時、家族懇親会、アンケートで、意見要望を伺っている。運営推進会議は、両者の参加を得、意見の反映に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や年2回の個別面談を設け、職員の意見を聞くようにしている。その他日々の業務の中でも、事ある毎に、職員の意見や提案を聞くように努め、運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表提出時に、職員個々の実績、勤務状況を把握するようになり、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施や、外部研修を受ける機会の確保を行う努力しており、資格取得の奨励も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	神奈川県認知症グループホーム協議会に所属しており、同業者との交流・連携に努めている。また、市内のグループホーム協議会も立ち上げ予定である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談は、自宅や病院に訪問し、直接本人と面談し、不安や要望等に耳を傾け、安心の確保に努めている。また、本人にホームへ見学に来てもらい、信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談やホームへの見学時及び契約時にご家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、ご家族に安心して頂けるよう、努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人や家族がその時必要なサービスを見極め、他のサービスが必要な場合は、必要なサービスに繋げている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の大先輩である利用者から、昔の文化等、学びの機会を得ており、励ましの言葉を頂く機会も多い。職員は常に、利用者と共に支えあい、良い関係作りに努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話で、本人の日頃の様子をご家族に報告し、事ある毎にご家族と相談し、要望・ご意見を伺いながら、支援にあたっている。また、その後の報告も行うようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	利用者の友人・知人の来所時には、お茶を出すなどして歓待している。また、家族や職員の支援で、馴染みの店やお墓参りに行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の利用者同士の関係を掌握し、申し送り等で職員間で共有するようにしている。また、問題があれば、すぐ対応し、利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院へ移っても、折に触れ、面会に行き、継続的なフォローを心懸けている。また、本人・ご家族へも必要に応じ、相談に乗り、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者は、夜勤帯に、意向を伝えてくれることが多く、申し送り等で他の職員に報告している。把握が困難な場合は、表情等から読み取っている。また、個別の希望実現も行っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談で、ご家族や本人から生活歴、環境、経過等の把握に努めている。また、入所後の生活の中で、把握したことがあれば、全職員で共有を図っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の全体像を掌握できるシートを用い、利用者の現状把握に努めている。また、個別検討会議で、暮らしの現状の把握に努め、全職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、ご家族の意見を反映させ、毎月の個別検討会議で職員の意見も取り入れ、必要に応じて主治医、看護師、マッサージ師等の意見も収集し、介護計画を作成している。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個別記録の他に、経過記録もつけており、職員間で情報の共有を図りながら、介護計画等の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の希望に応じ、「希望実現」という取組みを行っており、職員同行で好みの場所に出かけている。また、入居者会議を行い、できるだけニーズに答えるようにしている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者も地域の草むしりに参加し、近隣への散歩で、季節の花を愛でたり、地域の方から温かい声をかけてもらったりしている。行事の際は、地域ボランティアの参加もある。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医には、家族対応で、受信してもらっている。結果は連絡ノートに記録している。また、ホームへは内科医、看護師、歯科医が定期的に訪れている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	職員は、常に利用者の様子を、訪問看護師に伝え、相談し、連携を取りながら、利用者が適切な受信や看護を受けられるよう支援している。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	協力病院及び他医療機関に入院した場合も、医師、看護師、相談室等の病院関係者との情報交換に努め、早期退院へ向け努力している。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	事業所では看取りは行わず、看取りが必要と主治医が判断した場合は、病院への入院紹介を行っている。また、それに関する同意書を作成し、ご家族へ説明し、同意を得ている。		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	ホーム内で、消防署の協力を得て、定期的に救急救命講習会を開催している。また、急変や事故発生時に備え、内部研修を行い、実践に備えている。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	自主防災訓練を隔月で行っている。年に1回消防署の協力を得て、自治会の方にも声をかけ、防災訓練を行っている。災害に備え、水、非常食、カセットコンロ等用意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、人生の大先輩との尊敬の念を持ち、サポートしていくことを、会議等で確認しあっている。声掛け及びトイレ、入浴時の対応も気をつけ、プライバシー保護に気を配っている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	夜勤帯に、利用者が、思いの表出をすることが多く、その思いは共有し、実現につなげている。また、自己決定が難しい利用者は、寄り添い、思いをくみ取るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレクリエーションも強要せず、利用者一人一人のペースを大切にしている。入浴も入りたくない時は、日を改める等、工夫している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一年中スカートで過ごしたり、スカートやアクセサリーを楽しむ利用者もあり、称賛を心懸けている。また、難しい方には、組合せ等配慮して、身だしなみに気を配っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、出来る範囲で、調理、盛り付け、片付けを行っており、職員も一緒に同じ食事をしている。誕生会、行事には、好みの献立や外食をし、食事を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日々の食事は、栄養士によるバランスのとれた献立となっている。食事量や水分量は、日々記録し、掌握している。利用者個々に応じて、刻み、ほぐす等の対応も行っている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施し、専用の口腔内ブラシを併用している利用者もいる。義歯は、夕食後に預かり、洗浄している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>トイレでの排泄を基本とし、必要な方には、排泄チェック表を用い、トイレ誘導をしている。日中は、なるべく布パンツで過ごせるよう工夫している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防の為、牛乳やヨーグルト、果物を提供する等、工夫している。また、体操、散歩、家事等、身体を動かす機会を設け、個々に応じた予防を心懸けている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週3回、午後入浴が基本になっているが、希望に合わせて、柔軟に対応している。季節のゆず湯、しょうぶ湯を楽しんだり、歌を歌ったり、楽しく入浴できる工夫をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼食後に居室で横になる者やソファでくつろぐ者もあり、個々に休息できるよう支援している。夜間も安眠できる様、見守り、リネン交換、照明、温度、湿度に気を配っている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者個々の服薬情報がファイルされており、職員は内容を把握している。服薬確認は二重チェックをかけている。症状の変化があった場合は、すぐ医師や看護師に連絡している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>お茶、習字、絵画、お琴、読書、縫い物、編み物、園芸、ドリル、回想、歌、カラオケ、手品、紙芝居、トランプ、ゲーム等、楽しみを支援し、生活の中でも役割を担ってもらっている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個々の希望や状態に合わせ、散歩、買物等の支援を行っている。また、希望者には、個別対応での外出支援も行っている。外食を兼ねた外出行事は、概ね月1回実施している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事務所で、少額のお金を預かっており、買物の際は、できるだけ本人に支払ってもらうよう支援している。また、ご家族の希望で、少額の現金を、所持している利用者もいる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別対応となっており、ご家族の了解が得られれば、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また、ご家族等からの電話や手紙も同様に取り扱いしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内部は、木造りで温かみのある空間になっており、居間は床暖房になっている。ソファやテレビが配置され、花壇には季節の花を植えている。アルバムも、手に取れるようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや玄関前の椅子、ウッドデッキのベンチ、階段下の椅子等、居場所の工夫をしている。また、1～2階のユニット間の出入りは自由で、好きなように入出入りしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、洗面台とクローゼットが設置されている。仏壇、タンス、テレビ、テーブル、椅子、家族の写真、小間物等持ち込み、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、利用者の状態に合わせ、常に居住環境の見直しを行っている。手すりの増設、ポータブルトイレや車いすの導入、ベッドや浴用イスの見直しを行った。		



目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあいち

作成日 H24年5月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の保育園、小中学校との交流の機会がない。	地元の保育園や小中学校と、交流の機会を設ける。	保育園、小中学校に働きかけ、交流の設定を行う。	3ヶ月
2	5	危険防止上、やむをえず玄関の手動施錠を行っているが、検討が必要である。	利用者の安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援する取り組みを行っていく。	会議等で、引き続き検討を進め、目標達成に向け、議論を重ねていく。	3ヶ月
3	13	防災や災害時の対応について、地域との連携を深めていくこと。	地域と防災や災害時の連携を深め、非常時に備える。	運営推進会議で取り上げ、自治会長等と具体的に話あいの場をもつ。	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。